



静岡県立農林環境専門職大学・短期大学部ビジョン

(2023.02.28)

~Agrifore Mind 2030~

キーワードは

高度な実践力 + 豊かな創造力 + 人間力

緑あふれる学び舎で、生命と暮らしを支える農業に、「**経営という視点**」を強化します。また、「**環境・伝統・文化**」などを学び、人間力をアップしていきます。高い生産技術と経営マインドを持った、生産や経営のプロフェッショナルとして、**地域社会を支えリーダーとして活躍できる人材**を養成します。



(2023.02.28)

農と食の魅力を日々体験できる

農学系の専門職大学・短期大学部を目指します。

静岡県では、「ふじのくに農芸品」と呼ばれる多彩で高品質な農林産物が生産されています。本学では、多彩な「農芸品」を教材に、生産から加工、流通、販売、経営まで切れ目なく学ぶプログラムがあります。学生は、自ら栽培した作物を学食で喫食することにより、農と食のつながりを実践的に学びます。



(2023.02.28)

Agrifore Mind 2030



- ◇ 教育
- ◇ 研究
- ◇ 学生支援
- ◇ 社会貢献・地域連携・国際化
- ◇ 大学運営

教育

(2023.02.28)



農林業を産業として支える人材を養成します。

- ・生産技術の高度化に対応した教育の実施
- ・経営の多角化を見据えた、加工・流通・販売・消費分野に関する教育の実施
- ・農業・農村や森林の多面的機能の理解と農林業者の心構えに関する教育の実施
- ・クォーター制の特色を発揮させるカリキュラムの構築
- ・分野横断的な科目による経営を視野に入れたカリキュラムの構築
- ・農福連携に関する教育の実施
- ・多様な学生への対応とジェネリックスキル修得の推進
- ・学長をリーダーとした教学マネジメントの推進

研究

(2023.02.28)



農林業の発展に寄与する応用研究及び基礎研究を推進します。

- ・技術革新、経営改善のための分野横断型、文理統合型研究の推進
- ・産業界のニーズの掘り起こしや研究シーズ活用のための、産学官連携による研究の推進
- ・多様な手法による研究成果の広報や普及の推進
- ・積極的な人的交流ネットワークの構築による、共同研究体制の強化

学生支援

(2023.02.28)



学修に集中できる環境と細やかなキャリアサポートによる、学生の満足度の向上を目指します。

キャリアサポート

- ・資格取得の積極的な誘導による、学生の強みと自信の強化推進
- ・学生の特性、専門性、希望進路を鑑みた教員による進路指導の実施
- ・卒業生へのアフターケア

学生生活支援

- ・多様な学生が学ぶことができる体制整備
- ・学生満足度の向上
- ・安心のある学生生活（奨学金活用支援）

地域連携・社会貢献・国際化

(2023.02.28)



地域・国際社会に貢献する開かれた大学を目指します。

- ・生産物販売や学食を通じた地域住民との交流
- ・地域貢献活動を行う学生への支援
- ・公開講座やリカレント教育の推進
- ・市町との協定締結や連携事業の推進
- ・海外の高等教育機関との連携強化

大学運営

(2023.02.28)



学長を中心とした、ガバナンス体制の継続と透明性を確保します

- ・自己点検評価に基づく、切れ目のない改善
- ・教育評価システムの検証と改善による、教職員の資質の向上
- ・ジェンダーレス等を踏まえた多様な人材の登用
- ・育成をはかるための財政基盤の充実
- ・持続的発展に繋がる運営基盤の維持・強化
- ・静岡県の農林業政策と連携した大学経営
- ・特徴ある研究の支援



静岡県立農林環境専門職大学・短期大学部
建学のことば

(2023.02.28)

『耕土耕心』

大地を耕すことは、
自らの心を
耕すことである。



本学の前身母体である静岡県立農林大学校の理念を引き継ぎ、
技（わざ）・知（ち）・人間力（こころ）を耕し、農山村の地域社会を支え中核と
なる人材を育てます。

短大カリキュラムの改善について（連携協議会報告）

（短期大学部）

1 根拠 大学設置基準（専門職大学）

2 概要

学修者目線でより良い学びができるよう、短大カリキュラム検証ワーキングチームを立ち上げ、カリキュラムの修正を検討した。

3 カリキュラム検証の経緯

学生からの授業評価アンケート、大学評価アンケート、短大教員からのアンケート等を参考に、カリキュラムの修正意見を取りまとめ、それが実施可能かワーキングチームで仕分けを行った。その仕分け及び修正案について、教授会、文部科学省等で意見を伺いながら、最終案をとりまとめた。

教育課程連携協議会（令和 4 年 9 月 21 日開催）において、委員からは案のとおり進めることに賛同する意見が多数あった。

4 カリキュラム改正の概要

「効率的に単位を取得するため」及び「受講可能科目を増やすため」に授業を分割・通年の科目「静岡学」、「情報処理演習」、「保健体育」を春夏期と秋冬期の 2 つに分割し、それぞれで評価を行う

修正前	修正後
「静岡学」2 単位	「静岡学 」1 単位、「静岡学 」1 単位
「情報処理演習」2 単位	「情報処理演習 」1 単位、「情報処理演習 」1 単位
「保健体育」2 単位	「保険体育 」1 単位、「保健体育 」1 単位

・秋期と冬期に 30 コマで開講している「食品加工演習」を、秋期に 15 コマ、冬期に 15 コマに分割する

修正前	修正後
「食品加工演習」 (秋期・冬期 30 コマ)	「食品加工演習 」 秋期 15 コマを 2 回開講 「食品加工演習 」 冬期 15 コマを 2 回開講

卒業後即戦力となる実践的な内容が学べる授業を自由科目として新規に開講

修正前	修正後
	「実践マーケティング(仮称)」(7.5 コマ 1 単位) (外部講師を召喚)
	「大型機械実習 (仮称)」(15 コマ 1 単位) (大型機械限定解除、大型機械牽引免許を取得) 畜産コースの学生が対象。受講者が少ない場合は、他のコースの学生も受講可能。

受講希望者の多い選択科目の授業回数を増加（1回 2回）

修正前	修正後
「営農と農業関連法」 15コマ 2単位	「営農と農業関連法」、「営農と農業関連法」 15コマ 2単位

基礎知識が少ない時期（1年夏期）の学生に対する授業内容の改善

修正前	修正後
「樹木・組織学」 1年夏期	「樹木・組織学」 2年冬期
「森林生態学」 2年冬期 担当教員 1名	「森林生態学」(仮称) 1年夏期 森林生態学を中心に、木材生産から加工までの概論的な講義内容とする。講義はオムニバス方式で実施。 担当教員 5～7名

授業間の内容の重なりへの対応

- ・類似の内容を教える教員間で話し合い、講義内容を見直す。同じ内容を説明するにしても、開講時期に応じ、導入、基礎、応用と内容を深めるようにする。
- ・講義内容の共有化を図る（全員がアクセスできる共有フォルダーに講義資料をできるだけ保存し、全教員が見られるようにする）

2年冬期に実施している必修科目「農山村田園地域公共学」の開講時期の一部変更

修正前	修正後
「農山村田園地域公共学」 2年冬期に開講	「農山村田園地域公共学」 1年冬期(栽培コース)、2年冬期(林業・畜産コース)に開講

その他

- ・ 講義の聴講について・・・学生の興味のある講義については、特定の時間の みでも、聴講可能とする（ただし、単位取得はできない）。聴講したい場合は、学生が講義担当教員に直接申し込む。茶道、華道は人数が増えたと対応できない場合があるので、講師と教務課に聴講可能か相談することとした。
- ・ 授業の曜日・時間の変更・・・カリキュラムの変更に伴い、授業の曜日・時間も若干変更した。